

# 釈尊の「無財の七施」

(072)

一、涼しい目を施す

優しい目で相手を見ることが、その相手によい印象を与え、物質を与える以上にその人を幸せにします。

二、優しい言葉を施す

「ありがとうございます」、「おかげさまで」という言葉がどんなに人間関係をよくするかは皆さんが体験しておられることでしょう。

三、和顔悦色施わがんえつじきせ

和やかな顔、喜びにあふれた顔で人に接しなさいといわれます。

四、温かい心を施す

温かい心が善業を積むことはすでに述べましたが、どんな高価な布施も心がこもらないなら、徳にはなりません。

五、身を施す

「骨惜しみせず仕事をする」ことです。

六、房舎施ぼうしゃせ

「宿のない人に泊まる所を与える」ことです。

七、床座施しょうざせ

お年寄りとか体の悪い人に席を譲りなさいというのです。

## 一日暮らしの文

一日暮らしということを感じせしより、精神甚だすこやかにして、また養いに術を得たり。

いかんとなれば、一日は一月の始め、千歳万歳のはじめなれば、一日をよく養うことを得たれば、生涯を養うも難きにあらず。その一日暮らす程の勤めをなせば、その日過ぐるあり。それを明日はどうしてこうしてと、また相手なきことを苦にして、しかも明日にのまれ、この日は怠りがちなり。

終に明日に至れば、またその明日の工夫をするは、全体持ち越して今日なきものと思うゆえに、いつも気を遠きに費やし、精神を勞す。とかく明日のことは命のほども覺束なしといえばとて、今日の産業を粗末にせよとはあらず。

今日一日暮らす程の勤めを、励み行うべし。たとえ如何なる苦しみとて、一日と思えば堪へらるべし。一日一日と思わば、退屈あるまじ。

一生というは永きように思へど、後のことやら、明日のことやら、一年ないし百年のことやら誰も知る人あるべからず。

明けても暮れても、今日という一日あるのみ。

内心が清浄ならば 各位、福祿は自然に得られる

私たちの運命は業により決まります。まさに因果

の法則です。この業が運として現れるには三つの段階があります。現世で行ったことが現世で現れるのを順じゅんげんごう現業げんごうといい、次の生せい（来世）に報いを受けるのを順じゅんしょうごう生業しょうごうといい、その次の世せい（再来世）に報いが出ることを順じゅんごう後業ごうといいます。釈尊はこの三世の世界に届く智慧をもって、この因果の法則を悟り、私たちがどうしたらよいかを教えられたのです。

良いことをすれば良い運が来ることはわかりきっています。私たちが知りたいのは、なぜ自分はこの世に運が悪いのだ、とか、なぜ病気になるって死ななくてはならないのか、という問いへの答えです。

仏教の思想から言えば、今の貧苦は、過去生かこしようにおいて、けちだったり欲張ったりしたせいなので、苦勞はやむをえないのです。この運を改善する唯一の方法は良い業を積むことです。そのうちでも最も大事なことは、掲げた言葉のように「内心の清浄」と夢窓国師むそうこくしは言っておられます。国師の著された「夢中問答」の中で国師は「貧窮下賤で、名利ともに欠けているのは、ひとえに、過去生において名利のために悪業をつくったからである。それゆえ、ひたすら名利を求めたことをやめて、内心が清浄になれば、各位、福祿も自然に満たされるであろう」と述べています。

山本玄峰老師は、因縁とその結果について大乘十  
来として十の決まりを書いておられるので紹介しま  
しょう。

- 一、富貴ふうきは慈悲じひより来きたる
- 二、福德は善根より来る
- 三、無病は信心より来る
- 四、愛敬にんにくは忍辱にんじく（我慢）より来る
- 五、高位は礼拝らいはいより来る
- 六、智慧は精進より来る
- 七、病身は不浄より来る
- 八、短命は殺生より来る
- 九、貧窮けんどんは慳貪けんどん（けち）より来る
- 十、愚盲は破戒より来る

これらの決まりは生き方の指針にもなります。た  
とえば、病気になりたくない、というような気持ち  
は誰もが持っているでしょう。それには信心するこ  
と、とくに先祖を敬うこと、心を醜くすることをし  
ないこと、さらに無益な殺生をしないことです。

魂をゆさぶる禅の名言 双葉社 高田明和